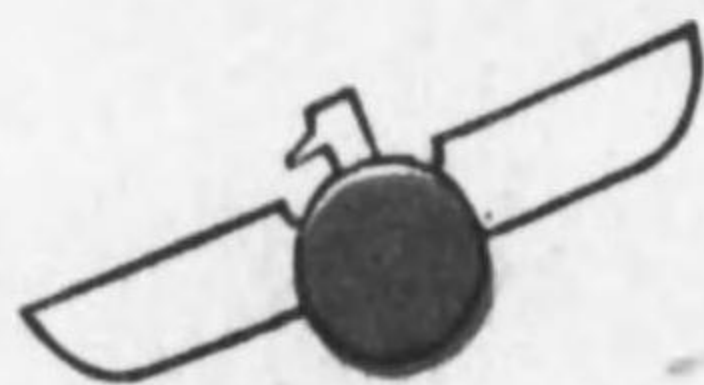


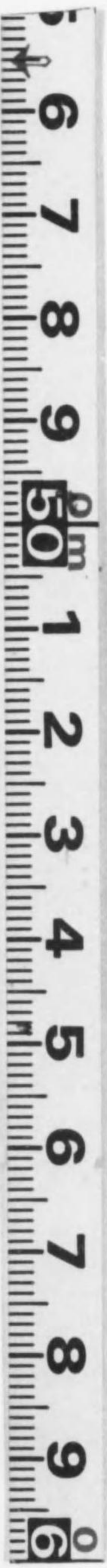
印事情

特 265

372



ラメス文庫



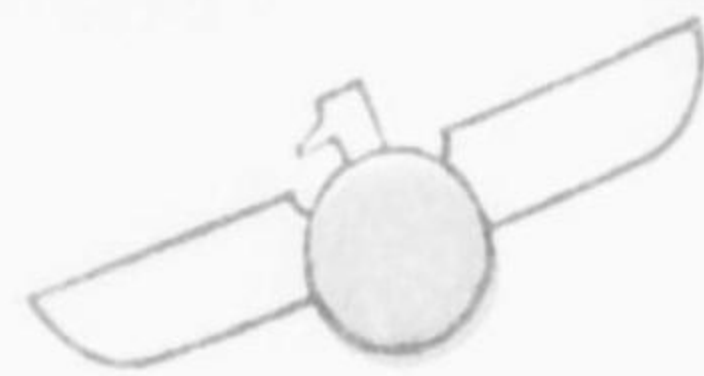
始



印事情

特265

372



スラム民文庫

44265
772



佛
印

ス
メ
ラ
民^{みな}
文
庫

事
情



世界創造社版

目次

佛印より歸りて……………波多尙・三

地政學……………清川眞・二

佛印より歸りて

波多尙

私昨年九月末丁度皇軍の佛印進駐の行はれました時に社命を受けまして佛印に参りました、それから皇軍の進駐以後、タイ佛印の講和會議が終了致しますまで約半年の間佛印に居りました。旁々關係問題のためにバンコックへも参りました。タイ佛印の問題を中心と致しまして半年の間この仕事を致して参りました、只今一寸本社との打合せのために歸つて來て居るわけであります。時間が餘りありませんから簡單にこの半年の間に於てこの印度支那半島に於て行はれて來ました日本と英米との戰といふものを中心と致しまして御報告致して

置きたいと思ひます。

その前に簡単に印度支那の安南人の問題を申上げて置きますが、佛領印度支那に於きましては大體人口二千五百萬人、その中に安南人が千八百萬人ばかり居ります。これを統治致します所のフランス人は僅か人口四萬女子供が約半數ありますから、實際の大人といふものは二萬人ばかりで、それも植民地稼ぎのごろつきみたい兵隊共が、一萬人も占めて居りますから、實際に仕事をして居る者は一萬人足らずで、その一萬人足らずの者が二千五百萬の佛領印度支那人、特に千八百萬の安南人といふ者を支配して居るわけであります。それだけの人數を以て佛領印度支那を搾取して來たといふわけでありますから、その植民地統治の残酷なこと、或はその意味に於て徹底して居るといふことは聽いて居りましたけれども、現に眼のあたり見て實に驚嘆に堪へないのであります。その一二の例を申して見ますならば、フランスがその佛領印度支那を占領致しまして、最初に南の方の交趾支那に足跡を印しましたのは丁度安南人が安南王

朝を成立致しまして非常な勢を以て北は東京、南は交趾支那に向つて發展して來る途上であつたのであります。その十八世紀末詰りフランス革命の頃に初めてフランスのピネオといふ牧師が参りましたカトリック教を表面に押出しながら、こゝに地方政府の助けを乞うて遂に交趾支那から東京を攻め、安南政廳を推し、次いでカンボヂアを征服下に置いて、ラオスを取つたといふ歴史的な有様であります。丁度このフランスが佛印を支配致しましたといふこと、詰り交趾支那に入つてこゝを抑へたといふことに依つて安南人の南下はピタリと止りました。人口の増加その他産業發達といふものなんかも大體に於て停頓致して居ります。かう眺めて見ますると御承知のやうに佛印は米の名産地でありませぬ。産額からいひますならば大體三千萬石、その中北部東京に於て一千萬石、南部に於て二千萬石、その中サイゴン方面の米が大體一千萬石であるといはれて居る。かういふ状態であります。これに對してこのフランス統治の八十年間に農耕法、或は灌漑、或はその品種の改良、さういふものには何等の改善のあ

とは見えて居らない。寧ろフランスの今日までやつて來ました統治の方針は印度支那の産業を開發するといふやうなことに於いては何等念頭に置いてない。唯金融資本をこゝに移植致しまして、さうして工業網をこゝに張りまして、さうして外國品が絶対に入らないやうな關稅、或は色々な入植に關する制限の法律、或は外國人の企業が絶対に出來ないやうな法律、さういふものを拵えまして、自分だけはこゝに入れるといふだけの法律を拵えて、フランス人といふものは今日に於きましても植民地に來てのう／＼と朝から晩まで酒を飲んで遊んで居る。晝は十一時半から三時まで晝寢を致しまして、夕方五時半頃に仕事を止めてなんにもしないで高給を貪つて居る。例へば安南人の巡査は月給三十圓といふのが現状であります。フランス人のごろつきが外國にやつて來て巡査になれば直ちに四百圓の俸給を取る。あすこのピアストルといふのは圓と大體同じやうな相場でありますから、大體同じと見てよい。さうして裸一貫でやつて來て、貨車二臺に充満する所の家財と數萬ピアストルの蓄財をしてフランス

に歸るといふ状態を建設して來て居ります。

その結果と致しまして僅か八十年の間にそれ程急速に發展して來たのであります。安南人は何等民族意識といふものを持つて居らない。又、安南自體の文字といふものを持つて居らない。言葉に残つて居りますけれども、それまで使つて居りました漢字といふものを解する安南人といふものは今日では殆ど残つて居らない。みなアラビヤ文字で安南語を綴ります。さうして安南人が、或はカンボヂヤ人もさうですが、外國に行くといふ事を絶対に禁止致しまして、外國へ行けるのは僅かに本國に特にフランス政聽の眼鏡に適つて留學する者だけである。その眼を潜つて密かに上海でも香港でも、日本は特にさうではありませんが、外國に行つた者はブラツクリストに載せて本國に歸れない。歸つても、丁度日本の共產黨のやうなもので、何等公の仕事に就かれない。始終尾行が附いて居る。だから安南人、カンボヂヤ人といふものは絶対に外國の本を讀むことは出來ない。又、外國のニュースといふものを聴くことが出來ない。その外

總ての學校生徒といふものは相當に金がかかる。然るに安南人の生活といふものは非常に低度のもので、丁度それは支那人と支那に於けるヨーロッパ人といふものの差、或はそれ以上違つて居るものがありますから、結局學校に行くことは出来ない。さういふ文盲政策、この統治といふものに依つて世界の情勢をてんで知らない。

それに悪いことにはこゝに長年住つて居る所のフランス人、これはフランス人といひますけれども、實は何代とこゝに居つて、而も非常に悪いごろつきをして來た者で、佛印人と稱して、これはフランス人と區別致しますが、これ等が一般の植民地搾取の衝に當つて居るといふ風な状態でありますから、安南人たる者は實際氣概がなくなつて、一生涯の目的といふものを何に置いて居るかといへば、僅かに衣食住に事足りればそれでよろしい。それも生活の向上を圖らうといふやうな考へ方ではない。かういふ風な實に慘澹たる状態に今日置かれて居るのであります。それで新聞なんかでは皇軍が初めて進駐致しました時

に安南人は非常に吾々を歓迎して、吾々の同族の而も兄貴分たる所の盟主がここに現はれて吾々を救つて呉れると思つたといふことは事實であります。實に安南人が日本人に似て居る。顔貌、言葉にも、家の造りにも、その他凡ゆる習慣に於て日本と似て居るといふことがある。所がそれを彼等は自分自體の歴史といふものを與えられて居らないし、自分自體の文化といふものを奪はれて居る。今彼等が色々學校やその他に於て教はる所の安南の歴史といふものはフランス人に依つて全然書代へられた所の歴史なのであります。傳へられる文化といふものは全くフランスの文化である。それでありますから、彼等が日本人を唯直觀を以て歓迎したといふことはありません。さういふ風に長年の間フランス人に依つてこつびどく傷めつけられて居つて、外國人に接觸することを禁じられて居るといふことのために、どちらかといへば今日まで日本人は非常に寄りつきたがつて居つても、遠くから離れて敬遠すると、かういふ風な状態であるのであります。

そこでこの日本の態度であります。日本が初めて援蔣物資監視といふ名目の下に昨年六月西原少將を團長とする監視團をハノイに派遣して、それから續いて九月末に皇軍がこゝに進駐致しまして、さうして實力を以て援蔣ルートを抑へるといふやうなことをやつたといふわけであります。所がそれは現實に於きましてはどうかといふと、安南人は當然、日本がフランス人を追拂つて吾々に還して呉れるといふことを期待したのであります。所が吾々日本人一般は名目とされた援蔣ルート遮断といふ風なことよりも、これは日本の南方政策の現實の斷行であるといふ風に皆感じたのであります。時の政府の意圖と致しましては、これは決してさうではない。支那事變の一つの延長である。單にこれは援蔣物資を遮断するに止めるのである。かういふ名目であり、又現實その跡を振返つて見ましてもさうであつたのであります。所がこれがフランス、或はイギリスにどう取られたかと申しますと、彼等は勿論表面の援蔣物資監視といふものを決してその儘受取つて居つたのではなくして、日本はこれに依つて佛印

を抑へるだらう、佛印を占領するだらうといふことを觀念して居つた所が、日本獨り逡巡躊躇致しまして、その公明正大をいつまでも高唱したために、フランスもイギリスも非常に妙な感じを持つて居つた。丁度、私が十月に参りました時に頻りにさういふ感じを懇へられ、あちらこちらから聴かれたのであります。日本は何時サイゴンに行くだらう。日本はサイゴンになぜ行かないのだ。日本の力を以て行けば行けるぢやないか。フランス人は諦めて居るのだ。イギリスもさう思つて居るのだ。唯日本だけが躊躇して居るといふのが現實の状態であつたのであります。その結果と致しまして安南人の態度といふものは、日本があれ程の兵隊を持つて來て、ハノイに來たといふだけで止つたことを非常に奇怪に感じて居つたといふ状態でありました。でありますから、その後引續いて行はれました例の日本と佛印との經濟交渉、このことも實は非常に怪しげなものであります。あれだけに日本の要求が止つたといふことは、日本の南進政策を主張する國民の直観といふものが一方にあり、それから他方には唯そ

れだけではどうにもならない。こゝに佛印から何等かの経済的利権を得なくては、これだけでは承知しないといふ一方の日本の経済界の中に於ける、さういふ風なものが色々競合致しまして、例の経済交渉になつたのであります。これは日本があそこで一歩も出ないといふことが可なりはつきりしましたために、フランスも英米も非常に日本の足許を見て、これを嘗めたといふ風な態度が露骨に現はれて来たのであります。さうして日本と致しましても、その時は實力を以てこれを押通す程の決心はまだついて居ない。實際現地に於ける日本と佛印との経済交渉は何等の成功も見ずして一箇月餘あそこでたゞしただけで、將校全部引上げたといふことは當然の結果だらうと思ふのであります。その後、日本はこの経済交渉に對してどういふ態度を執つたかといひますと、當時昨年六月パリが陥落致しまして、佛印の貿易が大半低下した。その結果として佛印の貿易といふものは、輸入六割といふものはフランス本國から来て居つた。その他歐洲諸國を合せて大體七割以上のものが歐洲か

ら来て居つた。それが歐洲大戰の結果としてピタツと止つた。それで佛印は輸入物資に困り、非常に物資缺乏の状態が現はれて居つた。日本はこれを利用して、詰り佛印を飢餓に陥れて、どうしても日本から買はなくては仕様がなないといふ状態に追詰めることに依つて経済交渉をうまく運ぼうといふ態度を持して居つた。

所が當時の歐洲情勢はこの佛印、或はタイ、或はシンガポール、南洋一帯、この方面の宣傳の實力を持つて居りました所のイギリス系、或はフランス系の宣傳網といふものは歐洲に於てイタリアが頻りに負けて居る。イギリスの海上勢力は安泰なものである。ドイツのロンドン上陸といふことは、これは絶対に不可能であるといふ風なことを毎日々々宣傳致しまして、現實又イタリア軍は可なり形勢不利であつたのでございます。そのことがこの方面に於ける英米系統の勢力に非常な力を與へました。それから丁度西原機關が初めて援蔣物資監視に入りました時に前のフランスから派遣されて居りました總督が鹹になりま

して、代りにペタン政権の代表として東洋艦隊司令長官であつたドクイ提督が印度支那の總督になつて居つたのであります。さうしてこれが例の昨年九月の皇軍進駐に於きまして、日本の壓力に抑へられて一時英米派と見られる植民地の詰り東京省知事だとか、交趾支那の知事だとかいふ風なものを鹹にして見たり、元々佛印に於て最も勢力を持つて居つた陸軍總司令官を鹹にして、新しくペタンの指名する總司令官と入換へたり、表面的には可なり舊自由主義勢力を肅清するやうな態度を、十月、十一月、十二月と續けて來て居つたのであります。所が先程いひましたやうに歐洲の情勢が可なりイギリスが終局に於ては勝つといふ風な空氣が出て來た。幾らドクイ總督でありまして、これは元々フランスの海軍に於て中將となつた人間でありますから、世界の大局が比較的判斷出來るといひまして、勿論、自由主義的な立場に於て世界の情勢を判斷して居つたといふことは當然のことでありまして、彼も十二月頃に至りますと大分物の見方といふものを變へて參りました。それと同時にイギリスがタイ及び

佛印に對して非常に猛烈な働きかけをこの情勢に乗じましてやつて來たのであります。丁度、タイ佛印の紛争といふものは十一月末に國境の火蓋が切られまして、戦争が十二月初めにかけて、可なり擴がつて來て居つたのでございますが、その時に執りましたイギリスの政策は何であるか。日本が佛印、續いてタイといふことに出て來るは明瞭である。さうするとイギリスがロンドンを追拂はれて占めるべき根據は印度、それと濠洲を連ねる線、そのキーポイントと致しましてのシンガポールが非常な重大な根據地であることはいふまでもない。そこで日本が佛印、或はタイに出て來るといふことになれば、イギリスに取つては逃げ場がなくなる。何としてもこれを支へなければならんといふことは、イギリスの當然の眼のつけた點であります。さうしてそれを支へるために、佛印並にタイといふものを我が藥籠中のもものとして前衛基地として備へなければならんといふことが考へたことは當然であります。

そこでイギリスが執りました政策は相當複雑でありましたが、タイに對しま

してはマレー國境の方から、或はビルマ國境の方から兵力を集中して一方これを威かし、それから佛印に對する失地回復の要求に對しましてはタイを煽て上げて、是非これをやらなければいかんというて、タイの兵力を佛印國境の方に集中させるといふことで、一方に威かし、一方に佛印にけしかけるといふ策動をやつて居つた。佛印に對してはどうかといふと、これはベタンに對しましてロンドンに逃げて居るフランスのイギリス的な勢力の代表者のド・ゴール、これの仲間であるフランスの中で、イギリス的な勢力といふものを全般的にド・ゴール派と一口に申して居りましたが、そのド・ゴール派が佛印に強烈に働きかけて來た。さうして軍隊を先づド・ゴール的なもので固めてしまふ。さうして就中佛印の經濟界に於て一番有力な地位を占め、これを支配して居りました。印度支那銀行を中心と致します所の、この佛印の經濟界といふものに働きかけて來たといふことに依つて、十二月から一月にかけての間に佛印の大體の動きといふものは、そのド・ゴール的な、詰りイギリス的なものの方に完全にだん

だんと引かれて行つたのであります。といふことは同時に日本に對して非常に悪い傾向、詰り反日的な傾向といふものが強くなつて來たのであります。さうして佛印をイギリスが自分の勢力下に置くといふことをやりながら、一方にはタイを威かし、タイをけしかけるといふ政策であります。

さうしてその後一月中旬に至つて、イギリスが先手を打つて、タイ佛印の居中調停をやるといふ表面の動きが出て來た。そこで流石に現地日本の諸機關も驚きまして、これを東京に報告して、東京に於ても急遽會議を開きまして、一月二十日に居中調停に出るといふ風なことを決定致しました。それでこの居中調停に出るについてはこちらの目標はタイとか、佛印とかいふものではなくして、相手はイギリスであり、さうして根本的のものはアメリカであるといふことは、これはもう明瞭なことでありませう。そのことは流石に東京でも考へたらしく、この居中調停に出るにつきましては、東京側は非常に緊張致しまして一應海軍及び陸軍の大々的な實力威嚇といふ態勢を整へました。その當時私は

昨年の九月以來の國內情勢を知らんものでありますから、非常に驚いたのであります。當時日本の政府なるものは南進態勢どころか、寧ろ平沼、柳川兩大臣の入閣に依つて逆なものに慥かに變化して居る筈である。そこに以て來て居中調停に出る。さうしてはつきりした南進態勢を占め、陸海軍の一致結束した足並みを執るといふことは如何にも奇怪であると思ひましたけれども、どうも出たことは事實その通りでありましたから、これは愈々日本は最後の決心をしたのかといふ風に私は非常にその時は喜んだのであります。所が果せるかな、その後サイゴンに於ける停戰會議、これは簡単に三日間で押切つてしまつたのであります。東京に於ける講和會議が開かれるまでの間にかけてはやはり本當に當時の日本の情勢に即しました軌道の上に歸つてしまつたのであります。その後一箇月半講和會議はドラ／＼と東京に於て行はれまして、その間に色々の經緯はありましたけれども、兎も角も表面的には御承知のやうな講和條件が出來て、さうして新聞の報じました所に於てはタイは親日的になり、佛印

も或る程度の抗日的な空氣が動いたが、大體東亞の盟主としての日本の地位は認められたのだといふ風に新聞は報じました。所が現實の情勢はどうかといひますと、決してそんなものではなくして、この一箇月半の間を通じて、イギリス及びアメリカの色々な牽制、佛印に働きかけといふものはこの前の三箇月に比べまして遙かに痛烈なものであるやうであり、今日に於きましてはその居中調停に出る前の情勢より遙かに寧ろ日本の勢力が後退致して居る。殊に南部佛印などに於きます所の日本人の商賣などはまるでやれつこはない。日本人の街を歩くことすら危険であるといふ風に日本に對する忿懣の氣があり、といふより寧ろ反撥の氣が漲つて居ります。さうして我が軍隊が進駐致して居ります北部に於てすら必ずしもこの居中調停に出る前よりか日本の勢力が伸びて居るといふ風にいへない。寧ろじり／＼と押詰められて居るといふ風なことであります。

タイに於てはどういふことであるか。近衛總理大臣の一週間ばかり前の談話

が新聞に大きく出て居りましたが、それに依りますと日本は南方に對しましては經濟進出の外何等の意圖も有しない。このタイ佛印の紛争の調停に日本は何等の代償を求めるものではない。かういふ風なことを云つて居ります。詰りこれは例の支那事變に對して賠償を求めず、領土を求めず云々といひましたあの聲明とその軌を一にするものであります。それでタイの方の空氣はどうであるか。日本から貰ふだけのものは貰つた。この次は日本から何か要求されるかも知れないといふことで、必ずしも新聞の表面の通りではありません。又これは地圖を御覽になれば分りますが、タイを本當に日本と協力する方向に導くといふものは何であるかといへば、これは人種的な共感といふことは勿論あるわけでありますが、現實の歴史の示します所は、日本の要するに力、力といふものがタイを取巻いて居ります所の英米的な勢力といふものを、完全に驅逐するといふ態勢をはつきり執らない以上は、タイとしては周圍から締めつけられて居る。詰り先刻申しました佛印がド・ゴールの勢力に締めつけられて居つて、

北部だけは日本が進駐して居るために發言權を持つが、しかし南部佛印に對しましては何等の手が伸びて居ない。そのためにタイとしては東はそのド・ゴールの勢力に締められて居る。北は勿論ビルマであるが、そのビルマの北部に蔣介石軍が入つて、ビルマの軍隊が南部に下つてマレー半島からタイを威壓して居るのであります。南部に於きましてはイギリスの陸海軍或は空軍に頑として抑へられて居る。御承知のやうに昔からイギリスの勢力が決定的に入つて居る。あそこの經濟界といふものは九分通りイギリスの勢力下にある。貨幣は完全にその準備は一文残らずといつてよい位まだロンドンにあるといふ風な状態でありまして、新に大藏大臣になる者は全部英語を喋り、イギリスに留學した者がタイの上層階級に居るといふことは思想的に政治的にイギリスの勢力がタイに入つて居るといふことでございまして、今直ちに日本の勢力がこのやうな状態でインフルエンスを及ぼしたといふことは到底考へられない。

さういふ状態でありますから、只今の所ではこの佛印に致しましても、タイ

に致しましても、この講和會議を日本が成功的に片付けたといふ風に表面にはれることに依つて想像されるやうな結果とは凡そ逆な状態にあるといふことを考へて戴いてよろしいと思ひます。然らばこれを今後日本がどうするかといふことは勿論、今後の問題でありまして、唯私この四月以後の情勢をよく知りませんが、想像されるのはバルカンの戦局の影響であります。これは今まで可なり宣傳に利用され色々な響きがイギリスに有利であるといふ風に聽いて居つたものが、或は若干その空氣は變つて居るかとも想像されますが、しかしそれは何といつても間接的な響きであつて、今後これを支配し得るものは日本の實際の力、實際の力がこゝに響くといふこと以外にはない。これについて考へられますのは、昨年九月大義名分と致しまして、これは、按蔣物資の遮斷である。詰り支那事變の延長であるといふことが口實であつたのであります。これを切換へて大義名分に依つて南に出させるといふ口實に捉へるといふことが、南進的なテクニツクであるといふことを頻りに強調して居つた日本の當路者と

いふものが、今度のこのタイ佛印の協定に際しまして最後に御承知のやうに停戦委員と稱し、或は今後國境測定委員と稱し色々なチャンスを持つて居るのであります。これを利用し得るかどうかといふことが今後の問題で、日本の國內諸情勢、世界の諸情勢が如何に左右するかといふことになるわけであります。私は今の色々な情勢から判斷致しまして、寧ろ今のやうな情勢であるならば、佛印に於ける反日的な空氣がもつと燃え上つて、日本がキュー／＼と北の端つこに押詰められてしまふ。タイは日本が出て呉れないために親日に動くべき所が逆に親英に動いてしまふといふ空氣がこの際、寧ろ一度出た方がよいのではないかと私は考へて居る所であります。まあ今後の問題はこれからの推移に俟つて、皆さんの今まで色々研究された所に従つてそれ／＼に討論されればはつきりした結論は當然出て來ると思ふのであります。唯その資料として簡単にこれだけのことを御報告して置きます。

地 政 學

清 川 眞

吾々が地理の對象となるべき距離とか、政治的區劃とか、或は産業とかいふやうなものを取扱ふに當つて、從來の取扱には非常に歪曲が行はれて居つた。吾々はそれを正しい姿に於て見なければならぬ。從來の地理學に於ては實は現在ある所の姿から出發して總てが考へられて居るのであります。一應現在といふものを是認してそれを出来るだけ合理的に解釋するといふことが從來の地

理學の仕事であつたのであります。現状そのものに對する批判といふものがなされて居らなかつた。さういふ問題に付て吾々は正しい立場からこれを正しき姿に於て見なければならぬといふことを考へるのであります。この地理に於ける歪曲といふものは、世界全般の地理に於てそれは行はれて居るのであります。特に我が日本に於ける地理的事象といふものを考へて見ましても、そこに幾多の歪曲が行はれて居るのであります。これは日本人自身の無意識の中にその歪曲を採り入れて來たといふこともあると思ひますが、又外國が故意に日本の地理的事象を歪曲したといふやうな面もあると思ふのであります。

先づその一つとして考へて見たいと思ひますのは、根本的に申しまして日本自身の貧困化といふことであります。日本を非常に貧弱に見る。これは歴史の立場からも勿論言はれることでありますが、スメラ學塾の講義に於て、屢々各講師の方々から強調されて居ることゝ思ひます。要するに我が國の主體性といふものを喪失してしまつて居るといふことが考へられる。これは地理的な立

場から日本の主體性の喪失といふ面が考へられるのであります。それには鎖國といふやうな問題が、非常に大きな影響を持つて居ると思ひます。イギリスがオランダと合同しまして、我が國を鎖國状態に導く。その鎖國以前の日本を考へて見れば、八幡船の活躍に見る如く、それは極めて發展的のものであつたと思ふのであります。それが鎖國以來海洋の遮斷性といふものが強調されるやうになつて、日本を海上の孤島といふ風に考へてしまふ。そこに日本自身の世界に於ける主體性の喪失といふことが考へられるのであります。併し之より先き既に日本に於て、主體性が次第々々に喪失されて居つたといふ事實が考へられるのであります。

抑々古事記、日本書紀に於て語られて居ります地理観は、我が國の主體性を確實に把握して居つたものと考へられます。即ち我が國を豊葦原中津國と考へて居るのであります。そこに日本の主體的な立場を確實に把握して居つたと思ひます。隨てそこに日本自體の研究といふことも、同時にその時機に於てな

されたのであります。それが即ち奈良朝の古風土記となつて居ります。これは現在から考へれば、日本の單なる地誌といふ風に考へられるかも知れませぬが、實は我が國の主體的な立場をはつきり自覺し、大陸發展の地盤としての我が國といふものを、この地誌に於て考へようとしたのではないかと思ふのであります。と申しますのはそれと相前後して、古事記、日本書紀といふやうなものゝ編纂が行はれたのであります。而もこれらの中には我が國の主體的立場といふものをはつきり擱んで居る所を見ますれば、必ずやこの時代になされた地誌編纂は、はつきり日本の立場を自覺した上でなされたものと思ふのであります。

所が平安朝から後になりますと、地誌の編纂といふものがなくなり、寧ろこの時代に於ては支那の地誌が日本に大きな影響を與へて居るのであります。支那に於ては御承知のやうに非常に古くは禹貢を始めとしまして、元明清の一統志といふやうに非常に尨大なる地誌が編纂されて居るのであります。その場合

を論ずる側も支那を中心とした地誌を作つて居る。これは世界何處でも實際自分の國が世界の中心であるといふことを考へたとは思ふのでありますが、唯日本の場合は具體的な中心がそこに居られるのでありまして、主體性はまさしく現實であります。支那のやうな場合には、單なる空想と言ひますか、彼等の誇大思想に基く所謂中華思想といふものから發して居ると考へられるのであります。要するに支那に於てもさういふやうな中心の地誌といふものが、過去からずつと生れて居るのであります。日本自身は奈良朝以後に於て地誌の編纂がなくなり、日本自體をはつきり把握する立場がなくなつた時分に、支那に於ては寧ろ支那を中心とした地誌があり、印度に於ても亦所謂須彌山説の如き、須彌山を中心とした地理觀といふやうなものが行はれて居つたのであります。さういふやうなものゝ影響が日本に續々入つて來る。その結果日本は日本自身を粟散邊土と見、或は日本人自ら東夷の人と稱して憚らないといふやうな時代がやつて來るのであります。隨つてこの時代に於ては日本の主體性は忘れられ、

支那或は印度にその中心を考へるといふことになつて居ります。彼の日蓮上人の如きでも、我が日本國は一閻浮提の中といふやうなことを言つて居られるのであります。閻浮提と申しますのは須彌山説の中にあるのでありまして、須彌山を中心にして東西南北に土地がある。その南に當るのが閻浮提であります。結局一閻浮提の中といふやうに日本を見るのはやはり日本を粟散邊土と考へる思想が盛られて居るのではないかと思ふのであります。さういふ風にして既に平安朝からして日本には日本を主體とするやうな考へが失はれて來て居つたのであります。

これが徳川時代に至りまして、先程申しましたやうに鎖國となりますと、一層この傾向は顯著になつて來たと思ひます。唯徳川時代になつて來ますと、我が國には再び地誌編纂がなされるやうになつて參ります。併しその場合の地誌の編纂は、眞に日本の主體性を認識した、地誌の編纂がなされたのではなくして、單に本領安堵と言ひますか、世の中は鎖國以來太平になり、大名始めとし

まして各地方の豪族なども、皆その本領に安堵して居るといふことになりま
すと、自分の郷土を誇りたいといふやうな氣持から、そこに地誌編纂が企てられ
たと考へられるのであります。勿論その中には國內の交通が非常に盛んになる
に連れて、名所舊蹟に憧れる氣持が出、さういふものゝ案内記としての地誌の
編纂もなされて居るのであります。要するに奈良時代に於ける地誌編纂と違
つて、徳川時代に於ける地誌編纂は、大きな立場からなされたのではなく、單
に自分の土地を誇るといふやうな意味が非常に含まれて居つたと思ふのであり
ます。隨てこの時代に於ては、やはり日本の主體性に付ては、十分な自覺がな
かつたと考へられるのであります。所が徳川時代も段々下つて参りますと、總
て北の方からはロシアの影響があり、南の方からはイギリス、フランスといふ
やうなもの刺戟も次第に加はるといふ傾向となつて参り、段々さういふ外部
の刺戟に連れて日本自身を反省して見る考へが起り、そこに次第に日本の主體
性を自覺するやうになつて來たと思ふのであります。さういふやうに自覺が非

常にはつきりして來ました人々は、大體に於て、外國と接觸した人々でありま
す。長崇に行つた人とか、或は北邊經營に對して非常に注目をした人々から、
次第に日本の國內に對する、自覺が起つて來るやうになつたと思ふのでありま
す。例へて申しますと、長崇の方では西川如見といふ人が「日本水土考」を著
はして、日本の國土といふものを把握しようと思へる。又北の方では御承知の
林子平、或は佐藤信淵といふやうな人が、北の刺戟に會つて次第に日本の主體
性を自覺して來る。この日本の自覺が驅て尊皇攘夷となり、遂に明治の御維新
となつたと思ふのであります。

所が明治になり鎖國の反動として急激に外來思想が入つて來るといふことに
なりますと、以前に於ては印度とか支那とかの影響に依つて日本の主體性が失
はれて來て居つたのが、今度はヨーロッパの思想の影響を受け、西洋中心の考
へが入つて來るといふやうな形に於て、やはり日本の主體性が又喪失されて來
る時機が到來して來ると思ふのであります。さういふことを考へて見ますと、

抑々日本の主體的な地理観といふものが確立せられてを つても、外部の色々な影響に依つてそれが時々ぐらつく。殊に明治以來はヨーロッパ的な影響に依つて、これが非常に失はれて行く。その結果非常に日本といふものを小さく考へてしまふといふやうな思想。最近まで日本に非常に入つて來て居つたのではないかと考へるのであります。さういふやうな主體性の喪失を中心としまして、その外の色々な地理的な事象を考へて見ますと、何れも日本自身を非常に貧困的に見るやうな傾向に扱はれて來て居るのであります。

この前にも申しましたやうに、小學校或は中學校の地理教授といふものを考へて見ましても、日本の主體性を自覺した所の地理教授ではなくして、要するにヨーロッパ中心の地理でなされて居る。産業に於ても結局日本は持たざる國として貧困化せしめられ、又地圖あたりを見ましても、世界地圖は大體メルカトールの圖法を用ひて居る。これは圓筒に對して投影した圖法でありまして、北極と南極は無限大に擴つて居るあの圖であります。隨つて面積から言ひます

と、赤道附近は大體眞に近いけれども、段々兩極に近付くに從つて、その面積は非常に擴大されて來た地圖であります。イギリスはこの地圖を好んで用ひて居るのであります。これに依つてイギリスの大といふものを誇つて居るのであります。試みに皆様が、イギリスで作られた地圖帖——タイムスの地圖帖とか、或はオックスフォードの地圖帖を開けて御観になれば、十分御諒解が行くだらうと思ふのであります。イギリスで作られた所の地圖帖は殆どメルカトール圖法を以て作られて居る。さうしてイギリスの領土は赤く塗つてあつて、一目見てイギリスの大といふものが分るやうにしてある。これは面積の非常な歪曲であります。所が日本の小學校乃至は中等學校の地圖帖を見ますと、その地圖帖その儘を持つて來てある。色こそ日本を赤く塗つて居りますけれども、全體として見ますれば、全くその儘の様式を持つて居る。隨てさういふ地圖を見た兒童並に生徒は、日本自身といふものは非常に小さな、貧弱なものと感じる譯であります。これは非常に思想戦になると思ふのであります。無批判的に

イギリスのさういふ地圖帖をその儘採り入れた日本は、必然的に日本の貧困化を生徒の間に植付て居つたのであります。これに對しましてドイツの最近の地圖帖を御覽になれば、これ亦十分御諒承の行く所でありまして、大體に於て隋圓の投影を用ひて居るのであります。兩極の開いたメルカトール圖法は殆ど用ひられて居らない。唯メルカトール圖法の特徴は方向が正しいのであります。隨て方向を正しく示さなければならぬやうな地圖には、ドイツの地圖に於てもメルカトールの地圖が用ひられて居りますが、面積を表はすやうな地圖に於ては絶対に用ひて居らない。これなどは日本が全然さういふ考へなしに、その儘外國のものを採り入れることに依つて、日本の貧困化といふものを自ら惹起して居る例と思ふのであります。

又、六大洲といふやうな考へ方も、一つの非常な歪曲であります。これはもう小島さんあたりからも御話があつたことと思ひますが、ヨーロッパはアジアの一半島に過ぎないのであります。而もそのヨーロッパを六大洲の一つと考へ

て居る。さういふことに依つて非常にヨーロッパを大きく考へてしまふ。又、オーストラリヤを六大洲の一つに考へるといふことも、實にひどい歪曲ではないかと考へます。一體島と大陸との境目は何處にあるかといふことを考へて見ますと、地理の方で島といふものゝ定義を致しますと、海洋的な氣候が一番内部分まで及んだ場合これを島と言ひ、然らざる場合はこれを大陸といふといふのであります。然らば海洋的な氣候は何度から何度かといふと、それははつきりして居らないのであります。グリーンランドとオーストラリヤとは、一體どれだけ海洋的な影響の及び方が違つて居るかと言ひましても、それらは區別することとは出来ないであります。それを一つの大陸と考へるといふことなども、やはり一つの地理的知識の大きな歪曲ではないかと考へます。或は支那といふやうなことも、實は一つの大きな歪曲なのであります。これは歴史の方で御説明はあつたと思ひますが、支那は完全なる大きな統一國家をして居つたことはいふ。支那は一つの區域を指すべき名前である筈でありますのに、これが恰も

國家の如く用ひられ、一つの大きな統一國家をなして居つたかの如く印象づけて居るのであります。結局斯ういふやうなものを無批判的にその儘學校の地理教授に採入れられた爲に、次第々々にそれらのものが影響を與へて、日本自身を非常に貧困的に考へるやうになつて居るのではないかと思ふのであります。

斯ういふ地理的事象の上の歪曲が考へられると共に、實際の日本の景觀が非常に歪曲せられて居る。その一つとして考へられますのは日本の鐵道であります。この日本の鐵道の敷設せられました、經緯に付きましては、吉田三郎氏の「日本建設史論」の中に詳しく述べられて居りますが、要約して申しますならば、初め日本が鐵道を敷設しようとした時には、アメリカがこれを援助したのであります。所がその後巧みにイギリスの方が手を廻しまして、結局、イギリスがこの鐵道を敷設することになりました。而も日本に最初に敷かれました鐵道を、イギリス植民地並の狹軌にしたのであります。勿論それをした時の理由としましては、日本は島國であつて、廣い鐵道を作る必要はないといふやうな

ことを言つて、日本人も成程さうかといふ風に考へて敷設したのでありませうが、今更これを廣軌に改めることは非常に困難な状況にあります。その爲日本の現在の輸送能力がどれだけ阻害されて居るかといふことは想像に餘りがあるのであります。これが若し大陸と同じ標準軌間になつて居りましたならば、下關から釜山の間に海底のトンネルが出来たとしますならば、青森から新京まで、或は北京まで、全然貨物を積替へることになしに引張つて行くことが出来る譯であります。現在に於ては朝鮮滿洲と内地との鐵道のゲージが非常に違つて居る爲、どれだけ大きな障碍を與へて居るか分らないのであります。この鐵道の如きは最も大きな日本の景觀の歪曲であると思ひますが、その外舉げれば色々澤山あると思ひます。

例へて申しますと、先般非常に大きな問題となりました、日本の屑鐵の問題も、日本に於ける景觀の二つの大きな歪曲であると思ひます。屑鐵の問題に付きましては、私よりも餘程詳しい方々が多いと思ひますので、こゝで巾上げる

必要もないと思ひますが、要するに日本の鐵の處理方法は、中間だけが非常に發達してしまつたのであります。普通ならば鑛石から銑鐵を作り、その銑鐵から鋼を造るといふ形がなされなければならぬのであります。それが即ち銑鋼一貫作業であります。所が日本の鐵の製造方法は、最初の銑鐵を造る作業が發達しないで銑鐵から、鋼を造る操作の設備だけが急に發達して來たのであります。銑鐵から鋼を造る場合に、勿論鑛石と銑鐵を混ぜてスチールを造るといふ方法もありますが、日本は御承知の如く屑鐵と銑鐵とを混ぜて鋼を造る方法が發達した譯であります。その結果日本の鐵製造の場合には、どうしても屑鐵がなければ出來ないといふことになる。而もその屑鐵は殆ど大部分をアメリカに依存するといふ形になつて居ることは御承知の通りであります。

それならば何故日本の製鐵操作が、中間だけが非常に發達をして片輪になるに至つたか。これには勿論色々の理由はあると思ひますが、その中で最も大きな原因の一つと考へられることは、第一次ヨーロッパ大戰の際に鐵は非常に値

が上りました。所が第一次ヨーロッパ大戰後、急激な鐵の値下が來たのであります。その結果日本の製鐵業者は鑛石から銑鐵を造り、それから鋼を造る作業をしたのでは到底引合はない。安い銑鐵を外國から入れ、更にそれよりもつと安い屑鐵を餘計使ふことに依つて鋼を造る作業をやらざるを得ない形に持つて行かれたと思ふのであります。それなれば何故鐵がそんなに急激な値下をすやうになつたか。これは勿論第一次ヨーロッパ大戰の際に、外國からの鐵の輸入が杜絶せられた爲に、鐵が上つて居たのが今度はヨーロッパから入るやうになつたから値下りしたといふことも考へられますし、又、ヨーロッパで今まで戰爭の爲に盛んに重工業をやつて居たのが、戰爭が濟んだ爲に鐵が剩つて來る。そこでそれが安く日本に入つて來るといふやうなことも考へられるかも知れませぬが、その最も大きな原因は、印度の銑鐵が非常に安い値で日本に大量入つて來たといふことでもあります。その爲に日本の鐵は唯でさへ値下りの傾向にある所へ非常に安い印度の銑鐵が入ることに依つて、益々値下をしなければ

ならなくなつて来る。その結果日本は片輪な鐵の操作が行はれなければならぬことになり、結局それが纏てアメリカ依存といふやうな形に持つて行かれたと思ふのであります。この印度鐵の莫大なる日本に對する輸出といふものは、イギリスの意圖的なものであつたと考へられます。それにはまだ確證を擲んで居る譯でありませぬのではつきりしたことは申上げられないのであります。日本の製鐵業者に、印度の製鐵會社の株を安く譲るといふやうな形にまで工作を進めて居つたといふことが言はれて居ります。隨て日本に印度鐵を安く入れることに對しては、日本の或る製鐵業者の如きは、進んでその手先となつて居つたやうであります。併しこの大量の而も非常に安い印度鐵の輸入を止めなければ、日本の製鐵業が健全なる發達をなし得ないといふ事を考へましたので、國內に於てはこの印度鐵の輸入に對して關稅を設けるといふやうな議論が行はれたのであります。これに對しては只今申上げましたやうに國內の製鐵業者は反對をする。だが自分自身が直接反對する譯には行かないので、それを紡績

業者に持つて行つて、若し日本が印度鐵を買つてやらなければ、棉を印度から日本に入れないぞといふやうに脅迫することに依つて、この印度鐵の輸入を阻止するのを防ぐといふやうな形が行はれて居つたといふことが言はれて居ります。これなども相當イギリスの手が働いて居つたのではないかと考へられるのであります。斯くして日本の屑鐵業は、非常に歪曲せられた形に於て最近まで來たといふことが考へられます。

建築に於ても同じことが言へると思ひます。この建築も或はその部類かも知れないのですが、要するに外國の建築その儘を日本に入れて來るといふ形に於て、日本の風土に適さない爲に、小學校あたりに於て脚氣患者が出來たり、或は風邪引が多くなつたりするといふことになるでございませうし、又日本のやうに雨の多い所に屋根の平らな建築を持つて來ることに依つて、盛んに雨漏りをするといふことにもなると思ふのであります。或は衣服などに於てもさういふことが考へられますし、食物の如きことに於てもさういふ點を色々と挙げれば

擧げられると思ひます。それらに付ては寧ろ皆様が色々と日本の現實の姿といふものを御考へになり、その歪曲といふものを御自分で御研究願ひたいと思ひます。又日本の人口問題でもさういふことが言へる譯でありまして、日本の人口増加といふことに對して、それを歪曲する方向に色々な手が働く。或はサングァー夫人が日本にやつて来て、盛んに産兒制限を説くと、いふやうな形に於て、日本の民族的發展を阻止しようとしたこともあつた譯であります。これらに付てはハウスポーフアの「太平洋地政學」に於てはつきり指摘されて居る所であります。それらを今一々擧げて行きましたが切りがないことでもありますから、止めて置きたいと思ひます。要するに日本の地理的知識乃至は日本の現實の地理的景觀といふやうなものを考へて見ましても、そこに多くの歪曲が行はれて居るといふことを皆様は十分洞察して戴きたいと思ひます。

然らばそこに本當にあるべき姿を吾々が見出す爲には、どういふやうな立場でなされなければならないか。本然の姿を開顯する爲の吾々の立場といふもの

を次に考へて見たいと思ひます。これは結局日本神觀と申しますか、神の見方並にキリスト教的な神觀といふやうな問題にまで遡つて行くのではないかと思ひます。更に申しますれば、舊約聖書的なユダヤの神觀といふものと、日本の神觀といふものとの相違をはつきり掴むことに依つて、この本然の姿を見出すべき地理的方法論と申しますか、さういふものが見出されるのではないかと思ふのであります。一體、キリスト教の神、更に遡れば舊約聖書に出て來る所の神は、元來が漂泊して居つたユダヤ民族の中から生れた神に對する考へ方であります。ユダヤ民族は一定の土地を持つて居らず、常に放浪的な生活をやつて居る。彼等の現實といふものは地に付いて居らない生活であります。而も極めて悲惨な生活であります。隨つて彼等としましては、現實が悲惨であればある程、益々將來を冀ふ氣持が出て來る。現實が悲惨であればある程、そこに益々頼るべき中心がなければ生活して行けない。そこで彼等は生活が悲惨であればある程、力強い神そこに求めざるを得なかつたと思ふのであります。結局斯く

の如き環境の下に、ユダヤ的なるエホバの神は生れて來た譯であります。その神は現實には彼等に與へられない。随つて彼等の神は、現實の生活から切離された所の神であります。神といふものは對立的に考へられる。彼等の神觀から言へば神が人を作つたのであつて、神と人との間に劃然たる差がある。アダムとイブは神様が土か何かを捏ねて、それに息を吹き込んで作られたものであります。そこに對立的な考へといふものが根本にあると思ふのであります。之に對して日本の神とは、御承知の如く吾々の祖先は神であるといふ信念は、日本國民の中に流れて居る所の考へであります。又記紀に於て語られて居ります所の神々の御生活は、神が次第に神様を御生みになつて行く。而も神を御生みになるのみならず、國土までも、或は草木に至るまで神がこれを御生みになる。即ち吾々は神の分身である。山川草木に至るまで、これは皆神の分身であります。神と人との間には繋りがある。この對立的な見方と、一體的なる見方、これが實はキリスト教的な神觀と日本神觀との根本的な相違ではないかと思ひま

す。随つてヨーロッパ的な考へから申しますならば、地理的な事柄を考へるに當りましても、常に土地と人といふものを對立的に考へる。さうして地の拘束性といふものを非常に強調する譯であります。この考へ方は神が人を支配するといふ考へを地に持つて來た考へ方である。斯ういふやうなことから、實は彼等の選民的な考へも出て來るでありませうし、又この前申上げました地理的事象を取扱ふに當つての抽象的な考へ方といふものも、この對立的な考へから導き出されて來ると思ふのであります。所が日本の神の考へ方といふものは、要するに神と人とは一體的な形にある。而も自然の中に總て一體的な形に含まれて居る大きな生命體として考へられて居る。さういふ立場から把握されたものが、そこに眞に正しい姿として生れて來ると思ふのであります。結局吾々が地理的な事象を扱ふ際に、この對立的な考へ方、それから更に抽象された所の考へ方といふやうなものを打破しまして、總てを一體として考へる立場に立つ時に、そこに本然の姿が生れて來ると考へて宜いと思ふのであります。即ち今ま

で地理學で言はれて居りました地人相關とか、或は交互作用といふやうなものは、何れもその考へ方に於ては人と地と對立的な考へが含まれて居る。それに對して、吾々は天と地と人といふものを一如に觀る。天地人一如觀と申しますか、さういふ立場に於て地理的事象を把握する時に、そこに吾々は本然の姿を開顯することが出來ると考へるのであります。

これを要するに吾々が地理の研究をなすに當つては、全體的な、總體的な立場から總てを把握して掛りたいと思ひます。これは取りも直さず只今言はれて居る所の總力戰といふ考へ方に歸すると思ひます。その立場に於て初めて吾々は正しい姿を掴み出すことが出來、而して現實の歪曲された姿を、正しい姿に持つて行く所の方策も斯くして初めて導き出すことが出來ると思ひます。この歪曲された姿から正しい本然の姿に導き出す戦ひが、即ち「すめらみいくさ」である。これがこのスメラ塾に於て強調されて居る所の戦ひであると考へます。大變粗雑に申上げましたが、一應以上を以て終りたいと思ひます。

佛印事情



不許複製

昭和十六年十二月二十五日印刷
昭和十六年十二月三十日發行

定價二十錢

編者 スメラ民文庫編輯部

東京市京橋區銀座西五ノ五菊地ビル

發行人 桑田禮輔

東京市麹町區有樂町一ノ一四

印刷人 中村伯三

東京市麹町區有樂町一ノ一四

印刷所 株式大參社

東京市京橋區銀座西五ノ五菊地ビル

發賣所 世界創造社

會員番號一一四〇一三番

電話銀座(57)五三八九番

振替東京一一六一四二番

配給元 日本出版配給株式會社

東京市神田區淡路町二丁目九番地

スメラ民文庫 内容目次

賀茂眞淵	仲小路 彰
賀茂眞淵	本田次郎・寺澤久男
林 子平	仲小路 彰
高田國防國家の礎石	本田親男
宣撫日記	吉村フキ子
弟橘媛命	仲小路 彰
文學についての斷想	吉村フキ子
女性文化の第一義	柳村フキ子
國政地理	地理研究會
修訂成るべき地理	山本 章甫
資源地理物語	中 村 光
復興アジアの歌	西谷彌兵衛
科學者の自覺	近世日本科學史論(一)
廣域經濟に於ける	技術的諸條件について
人間能力の探求に就て(一)	泉 三郎

山崎 關齋	前田 隆一
山崎 關齋	仲小路 彰
日本精神に就いて	志田 延義
吉田松陰	前田 隆一
萬葉の愛情	月岡文子
ハゲアス大王國	ヨーロッパ問題研究所
産業戦士	泉 三郎
舊態勢科學の正體	小倉 虎治郎
黄金の國ビルマ	川上 親行
美の生活と生活の美化	世界ユダヤの首都 ニューヨーク
世界ユダヤの首都	アメリカ問題研究所
ニユーヨーク	吉村フキ子
黎三つの日記	吉村フキ子
よびかけ	吉村フキ子
よびかけ	吉村フキ子
山鹿素行	仲小路 彰

社 造 創 界 世

二重奏	吉村フキ子
明暗	笠原せつ子
アメリカの苦悶	仲小路 彰
帝國議會の本質	八條 隆孟
歐洲大戰とラヂオ	深 尾 重正
戦争經濟	西谷彌兵衛
ワールブルグ家の三兄弟	ヨーロッパ問題研究所
櫻木	赤松 俊秀
日本佛教史について(一)	吉村フキ子
佐藤信淵	仲小路 彰
國土經營の指導者	佐藤 信淵
變革の精神(三)	中 村 光
文學總力戰	仲小路 彰
總力戰史觀よりみたる文學	吉村フキ子
雲と影	川上 親行
科學者の責務	人間能力の探求に就て(二)
人間能力の探求に就て(二)	泉 三郎

近世日本科學史論(二)	中 村 光
科學者の自覺(二)	前田 隆一
科學思想	上 田 道隆
「實証主義科學振興」の否定	深 尾 重光
宣撫日記	本 田 親男
ユダヤ世界制覇	アメリカ問題研究所
本居宣長	仲小路 彰
本居宣長	アンドレ・モウロア
佐久間象山	仲小路 彰
佐久間象山	アンドレ・モウロア
頼山陽	仲小路 彰
日本の信仰	赤松 俊秀
日本佛教史に就て(二)	前田 隆一
吉田松陰に就て(二)	前田 隆一
山縣大貳	中 村 光
變革の精神(一)(二)	中 村 光
討論論の先驅	山縣大貳

社 造 創 界 世

仲小路 彰謹編
 大 皇 國 上二五〇
 仲小路 彰著 中二五〇
 世界 戰爭 論 二五〇
 日本 精神 論 二五〇
 日本 經濟 論 二五〇
 日本 政治 論 二五〇
 小島 威彦著 一八〇
 哲學的 世界 建設 一八〇
 喜望 峰に 立つ 二五〇
 清水 宜雄著 一五〇
 アジヤ 宣戰 一五〇
 高嶋 辰彦著 二〇〇
 皇 戰 二〇〇
 志田 延義著 一六〇
 神話 篇 一六〇
 吉田 三郎著 一八〇
 日本 建設 史論 一八〇
 山本 鏡著 二二〇
 學の 使命 二二〇
 堀井 實(實)遺稿 一九〇
 哲學 的 戰 一九〇
 第 期 學 塾 講 座 二五〇

17 開野 史代 論 力 戰
 16 日 本 史 代 論 力 戰
 15 日 本 史 代 論 力 戰
 14 フ ア ツ シ ム 論 力 戰
 13 日 本 史 代 論 力 戰
 12 日 本 史 代 論 力 戰
 11 日 本 史 代 論 力 戰
 10 東 亞 協 同 體 思 想 論 力 戰
 9 東 亞 協 同 體 思 想 論 力 戰
 8 對 英 戰 と 被 壓 迫 民 族 的 解 放 論 力 戰
 7 天 本 皇 學 論 力 戰
 6 支 那 人 は 日 本 人 な り 策 論 力 戰
 5 ア ジヤ 問 題 論 力 戰
 4 獨 伊 伊 的 解 放 論 力 戰
 3 八 出 延 義 著 一八〇
 2 植 民 地 解 放 論 力 戰
 1 日 本 百 年 戰 争 宣 言 論 力 戰

35 佐 藤 時 國 際 通 貨 論 力 戰
 34 日 本 史 代 論 力 戰
 33 日 本 史 代 論 力 戰
 32 日 本 史 代 論 力 戰
 31 日 本 史 代 論 力 戰
 30 日 本 史 代 論 力 戰
 29 日 本 史 代 論 力 戰
 28 日 本 史 代 論 力 戰
 27 日 本 史 代 論 力 戰
 26 日 本 史 代 論 力 戰
 25 日 本 史 代 論 力 戰
 24 日 本 史 代 論 力 戰
 23 日 本 史 代 論 力 戰
 22 日 本 史 代 論 力 戰
 21 日 本 史 代 論 力 戰
 20 日 本 史 代 論 力 戰
 19 日 本 史 代 論 力 戰
 18 日 本 史 代 論 力 戰

社 造 創 界 世

6 間 宮 林 藏
 間 宮 林 藏
 女性 と 教 育 (上)
 高 田 屋 嘉 兵 衛
 高 田 屋 嘉 兵 衛
 女性 と 教 育 (下)
 水 戸 光 圀
 水 戸 光 圀
 ヒトラー 作 戰 と
 ナポレオン 作 戰
 近 藤 重 藏
 近 藤 重 藏
 文 學 雜 觀
 女 性 - 愛 情 篇 -
 女 性
 女 性 文 化
 女 性 文 化
 文 化 と 天 才
 日 本 精 神
 日 本 精 神

仲小路 彰 彌
 伏見 猛 彌
 仲小路 彰 彌
 伏見 猛 彌
 仲小路 彰 彌
 清水 宜雄 彰
 仲小路 彰 彌
 吉村 フキ子 彰
 吉村 フキ子 彰
 吉村 フキ子 彰
 小島 威彦 彰
 小島 威彦 彰
 志田 延義 彰

日 本 科 學
 日 本 科 學
 佛 印 事 情
 佛 印 事 情
 地 政 學
 地 政 學
 漱 石 と 夢
 漱 石 と 夢
 あ ら が き

泉 三 郎
 波 多 尙
 清 川 眞
 吉 村 フキ子
 吉 村 フキ子

社 造 創 界 世

二 明暗二重奏 アメリカの苦悶 アメリカの苦悶 帝國議會の本質 歐洲大戰とラヂオ 戦争經濟 戦争經濟 ワールブルグ家の 三兄弟 ヨロツバ問題研究所	吉村フキ子 笠原せつ子 仲小路彰 八條重孟 深尾正 西谷彌兵衛
櫻木 日本佛敎史について(一) 赤松俊秀 吉村フキ子	
4 佐藤信淵 國土經營の指導者 佐藤信淵 變革の精神(三)	仲小路彰 仲小路彰 中村光
文學總力戰 總力戰史觀よりみたる文學 雲と影 大衆一劍を磨く 科學者の責務 人間能力の探求に就て(二)泉	仲小路彰 仲小路彰 川上親行 吉村フキ子 川上親行

近世日本科學史論(二) 科學者の自覺(二) 科學感想 「實證主義科學振興」の否定 宣撫日記 宣撫日記 ユダヤ世界制覇 ユダヤ世界制覇	中村光夫 前田道隆 上田重光 深尾重光 本田親男 アメリカ問題研究所
5 本居宣長 本居宣長 アメリカ危し(二) 佐久間象山 佐久間象山 アメリカ危し(二)	仲小路彰 仲小路彰 仲小路彰 仲小路彰 仲小路彰 仲小路彰
賴山陽 賴山陽 日本の信仰 日本の信仰 日本佛敎史に就て(二) 日本佛敎史に就て(二) 吉田松陰に就て(二) 吉田松陰に就て(二) 山縣大貳 山縣大貳 變革の精神(一)(二) 變革の精神(一)(二) 討論論の先驅 討論論の先驅	仲小路彰 仲小路彰 仲小路彰 仲小路彰 仲小路彰 仲小路彰 仲小路彰 仲小路彰 仲小路彰 仲小路彰 仲小路彰 仲小路彰 仲小路彰 仲小路彰 仲小路彰

40
463

世界興廢大戦 國民版

行發所究研化文爭戰 著彰路小仲

日本世界維新の總力戰的實現!! 日本世界主義の全面的樹立!!

唯一の總力戰史觀による眞の世界史であり、一切の歐米的小日本的な過去の誤謬に滿てる歴史は、その全面的變革をなされ、始めて日本を樞軸とする世界史的轉換の具體的實現が闡明されたのである。

新刊	元寇	日清戰爭(上)	歐洲大戰(中ノ一)
人類政治闘争史	日清戰爭(下)	歐洲大戰(中ノ二)	
北清事變	支那戰國時代	歐洲大戰(中ノ三)	
盤國	普墺戰爭	歐洲大戰(中ノ四)	
イタリヤ獨立戰史	大坂落城譜	歐洲大戰(下ノ一)	
ペルシヤ戰爭	支那春秋時代戰史	歐洲大戰(下ノ二)	
ギリシヤ戰爭	イギリス革命戰爭史	八幡船戰・倭寇	
ホエニ戰爭	フランス大革命戰史	南洋民族侵略戰	
成吉思汗戰史	上代西南アジア戰史	南洋白人搾取史	
百年戰爭史	ナポレオン戰爭(上)	一九三六年(1)	
七年戰爭史	歐洲大戰(上)	一九三六年(2)	

戦世史Ⅱ 一九三七年1 分賣自由 定價 一册 〇・二五〇 送料 一册 〇・一四〇

社造創界世

スメラ民^{みん}文庫

- | | | | |
|---|--|---|---------------------------------------|
| 1 | 賀茂眞淵
林子平
弟橋媛命
國政地理
科學者の自覺 | 5 | 本居宣長
佐久間象山
頼山陽
山縣大貳
日本的信仰 |
| 2 | 山崎闇齋
吉田松陰
産業戦士
世界ユダヤの首都
ニューヨーク
黎明 | 6 | 間宮林蔵
高田屋嘉兵衛
近藤重蔵
女性性
水戸光圀 |
| 3 | 山鹿素行
アメリカの苦悶
戦争經濟
櫻木
よびかけ | 7 | 女性文化
日本精神學
日本科學情夢
佛印事と
漱石 |
| 4 | 佐藤信淵
文學總力戰
科學者の責務
宣撫日記
ユダヤ世界制覇 | | |

以下續々刊行

¥. 20

スメラ民^{みん}文庫

- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1 | 賀 茂 眞 淵
林 子 平
弟 橋 媛 命
國 政 地 理
科 學 者 の 自 覺 | 5 | 本 居 宣 長
佐 久 間 象 山
頼 山 陽
山 縣 大 貳
日 本 的 信 仰 |
| 2 | 山 崎 闇 齋
吉 田 松 陰
産 業 戦 士
世 界 ユ ダ ヤ の 首 都
ニ ュ ー ヨ ー ク
黎 明 | 6 | 間 宮 林 藏
高 田 屋 嘉 兵 衛
近 藤 重 藏
女 戸 光 性 囚
水 戸 光 性 囚 |
| 3 | 山 鹿 素 行
ア メ リ カ の 苦 悶
戦 争 経 濟
櫻 よ び か け | 7 | 女 性 文 化 神 學 情 夢
日 本 本 印 石
日 佛 印 石 |
| 4 | 佐 藤 信 淵
文 學 總 力 戦
科 學 者 の 責 務
宣 撫 日 記
ユ ダ ヤ 世 界 制 覇 | | |

以下續々刊行

終